

復興きずな新聞



創刊号

本紙は、石巻市内の仮設住宅および市街地の復興公営住宅向けに発行・配布する無料情報紙です。毎月10日発行。

創刊のご挨拶

仮設住宅、および復興公営住宅にお住まいの皆さま、こんにちは。石巻復興きずな新聞編集長の岩元暁子と申します。多くの方は「お久しぶり」ですが、「初めまして」の方(みなし仮設から復興住宅に移られた方など)もいらっしゃるので、改めてご挨拶させていただきます。たいと思えます。

仮設きずな新聞

仮設きずな新聞は、ピースボート災害ボランティアセンター(PBV)が石巻市内の仮設住宅向けに発行・配布してきた無料情報紙です。「仮設暮らしに役立つ情報を発信する新聞」「ココロが元気になる新聞」をコンセプトに、2011年10月から今年3月までの4年

半で、全113号を発行してきました。私は3月までPBVの職員で、この新聞の編集長を務めてきました。

災害時の緊急支援を行なう団体であるPBVは、震災から5年という節目で石巻での活動を終了することになり、それに伴い仮設きずな新聞も終刊となりました。

終刊を決めた際には、複雑な思いがありました。「仮設住宅に暮らす方々にとって、震災5年は何の節目でもない。仮設住宅を出て、次の住まいに移る、その時こそが節目となるはず」。そうした中、新聞の制作や配布に携わってくれていたボランティアたちから「続けたい」という声が上がりました。

た。「関わるボランティアにとつても生き甲斐になるなら」。私はこの活動を続けていける「新しいカタチ」を模索し始めました。

石巻復興きずな新聞

今年4月、仲間と共に「石巻復興きずな新聞舎」を設立しました。「最後のひとり」が仮設住宅を出るまで」を目標に活動を継続していきます。そのためにも、これからは「読む人だけでなく、書く人・配る人も元気になる新聞」でありたいと考えられています。住民の皆さんからの反響、皆さんとの交流が、ボランティアたちの一番のモチベーションです。ぜひ皆さんの声を聴かせてください。

◆石巻復興きずな新聞舎 代表兼編集長 岩元暁子

石巻復興きずな新聞に関する疑問・質問にお答えします!

創刊の準備を進めるなかで皆さまから寄せられた疑問・質問にお答えします!

Q1 月何回発行?

毎月1回、10日以降、その月内にお届けできる予定です。ただ、ボランティアの手で配布するので、届く日はバラバラになってしまいます。また、たまに遅れてしまうこともあるかもしれません! 気長にお待ちください。

Q2 無料なんじゃるか。購読料を取られるのでは?

(蛇田地区 70代男性) この新聞は助成金や全国からの寄付で運営され、市内の全仮設住宅と市街地の復興公営住宅に無料で配布します。寄付も大歓迎(4面参照)ですが、住民の皆さまから購読料などは頂きませんので、ご安心ください。

Q3 新聞は誰が配っているんですか?

(開成地区 30代女性) 新聞はボランティアや各地区の協力者さんの手で配布します。仮設住宅には、ボランティアがお邪魔して手渡し、またはポステイングでお届け。復興公営住宅へは、ポステイングでの配達になります。配布ボランティアを見つけたら、お気軽に声を掛けてみてください。ボランティアは住民の皆さんとの会話を楽しみに行っています。とても喜びます! 新聞配りをお手伝いしてくれる方も募集中! 「自分の団地に配るよ」という方も、私たちと一緒に団地を回り、手渡しで配布活動に参加してくれる方も、どちらも大歓迎です。月1日からOK、ご興味ある方はお電話にてご連絡ください!

Q4 記事を書いているのはどんな人たちの?

(河北地区 50代女性) 医療・健康・心のケア・街づくりなど専門

Q5 自力再建で仮設を出るんですが、これからも読みたいんだけど...

(雄勝地区 50代男性) ご愛読ありがとうございます! 仮設住宅から市街地の復興公営住宅以外に移られる方のために、「購読会員」の制度を用意しました。年会費2000円で、毎月「石巻復興きずな新聞」を郵送にてお届けします! 希望される方は、左記の番号にお電話ください!

◎新聞配布ボランティア・掲載希望・購読会員などについてのお問合せ 090-6688-618317

医療・健康



全国訪問
ボランティア
ナースの会
キャンナス

皆さん、こんにちは。私たちが「キャンナス東北」は、震災後の2011年3月20日から、気仙沼、石巻を中心に活動をしてきました。母体は神奈川県藤沢市にある「全国訪問ボランティアナース」というNPO法人です。現在は、牡鹿半島でのコミュニティサロン「おらほの家」でのお茶会の運営や、石巻市からの委託を受け、仮設住宅から再建先へ移行する方々の支援を行なっています。

石巻復興きずな新聞では、健康や運動に関する豆知識を発信していきます。担当するのは野津里美（のつさとみ・通称さとちゃん）、看護師です。出身は広島県。石巻と同じく牡蠣の名産地ですね。昨年10月、結婚を機に牡鹿半島十八成浜（くぐなりはま）に移住しました。私のほかに、全国の看護師や作業療法士などの医療職のボランティアが記事の執筆を担当します！みんな、今でも石巻のことを想っているメンバーばかりです。

皆さんの健康に役立つ情報を発信していきたいと思しますので、どうぞよろしくお願ひいたします！

こころのケア

ついでお手伝いしたり、相談を

みなさん！こんにちは。一般社団法人震災こころのケア・ネットワークみやぎ・からこころステーションの高柳伸康と申します。ニックネームは「たかやん」です。

我々は、震災後のこころのケアを中心に、精神保健活動を行なっています。駅前にある秋田屋ビル1階に事務所があり、そこからこころとからだの健康に

お受けしたりしていただきます。全国から支援に来てくださる精神科の医師たちが、不安・不眠・元気が出ない・ひきこもり・認知症・アルコール問題などの相談にあたります。ご本人からの相談だけではなく、ご家族やご友人からの相談もお受けしています。

今回、新聞では「こころのケア」に関する記事の執筆を担当します。

◆一般社団法人震災こころのケア・ネットワークみやぎ・からこころステーション
高柳伸康

河北地区

二子団地まちづくり協議会会長を務める阿部良助と申します。

道の駅「上品の郷」の向かいに誕生する二子団地は、半島部最大の防災集団移転団地で、約400世帯が居住する予定です。河北だけでなく、雄勝や北上からも多くの人が移転し、文字通り新たな「まち」が誕生します。

その新しいまちでの、安全・安心なコミュニティ

ユニティのあり方を検討するため、各地区の代表者が集まってつくられたのが、「二子団地まちづくり協議会」です。2013年9月の第1回以来、現在までに計19回開催されて、だんだんと新たなまちのあり方が見えてきました。

私自身は震災当時、大川小のある釜谷に暮らしていました。現在は、車で20分ほど離れた仮設三反走（さんだんばしり）団地で生活しています。大川地区

9部落中4部落はもう住むことができない地域ですが、そんな故郷を忘れず、できることをしようと、地域の方々と共に桜の植樹や花壇づくりなどの活動も続けています。

このコーナーでは、二子団地の街づくりの様子や、大川地区の現在を皆さんに知っていただければと思っています。見守っていただけると幸いです。

◆二子団地まちづくり協議会
阿部良助

北上地区

北上地区を担当する青山と申します。普段は市役所の職員として、ある時はお寺の住職として、二足の草鞋を履きながら、4人の子どもの子育てで常にかつおのように動き回っています。設立から2年目を迎えた、北上地区の地域づくりを行なう住民団体「北上インボルブ」や「We Are One北上」のメンバーとしても活

動しています。地域住民を巻き込みながら北上を盛り上げていくのが両団体の方針です。で、ぜひ巻き込まれてください。

「仮設きずな新聞」でも4回ほど北上地区のコーナーを執筆しましたので覚えていらつしやる方もいるかと思ひますが、縁あって、この新しい新聞でも引き続き北上地区の情報をお届けします。

震災前は海水浴場があった十三浜の白浜にお寺があり、そこに住

◆北上インボルブ／We Are One
青山英幸

〇〇〇 包括ケア

はじめまして、開成仮診療所の藤戸孝俊と申します。普段は医師として、内科外来や訪問診療をしながら、石巻市包括ケアセンター(以下、センター)と協力し、「支え合いの地域づくり」に取り組んでいます。

センターはもともと、被災者の生活支援を目的に設置されました。開成・南境地区を中心に、「住み慣れた

〇〇〇 場所ですつと安心して暮らしていける地域づくり

です。そのために私は健康づくりや、みんなでお支え合いながら生きていける地域づくりに関わっています。

そんな活動を、きずな新聞を通じて皆さんにお伝えしていきたいです。医師5年目でひよつこな私ですが、皆さんと一緒に歩みながら、成長していきたいと思っております。よろしくお願ひします。

◆開成仮診療所/石巻市包括ケアセンター 藤戸孝俊

〇〇〇 雄勝地区

皆さん、はじめまして。新しくなったきずな新聞で、雄勝町の情報発信を担当することになりました。鈴木拓也と申します。

今年の3月まで、雄勝地区の復興応援隊として、イベントのお手伝いや雄勝町のPR活動、地域に特化した新聞の制作などを行って来ました。これまでの活動が雄勝という地域を知るきっかけとな

り、今では単純に雄勝のファンになつている私ですが、この新聞では皆さんにとつての「きっかけ」となるような情報発信を目指し、雄勝町を知る方も知らない方も楽しんでいただける記事にしたいと思つています。

◆鈴木拓也

つ、音楽活動をしていきます。また「雄勝町伊達の黒船太鼓保存会」のメンバーとして、和太鼓を打つたりもしています。

震災で雄勝から離れた方も一緒に活動し、地域に対して何ができて、何を残せるかというのを四苦八苦考えています。未来へ進展があるようなことを記事にし、雄勝町内外の方たちと共有できればと思います。

◆四倉由公彦

〇〇〇 牡鹿地区

石巻生まれの石巻育ち、本家が牡鹿半島の杉浦達也と申します。サードステージという団体で、代表理事を務めています。

2011年4月にNPO法人ジェンに入職し、仮設住宅への生活支援用品の搬入やコミュニティ支援、地域づくりなどに携わったあと、今年1月に一般社団法人サードステージを立ち上げました。市

からの委託を受けて仮設住宅での自立生活支援員を務める傍ら、牡鹿半島で住民・企業・団体の行政が話し合う場を企画したり、地域福祉の推進をめざす事業を行なったりと、様々な活動をしています。地域や地域の人々と活かし活かされながら、安心して居場所づくりをめざしています。

この新聞では、「鹿は知っている?」牡鹿半島・これからの居場所」と題して、ふるさと牡鹿を舞台に私たち

が行なっている活動や、それを通して見えてきた牡鹿の「いま」を紹介していきたいと思つています。コーナー名には、より居心地のいい場を開拓していく鹿のように、これまでの生活や文化や資源を大切に、そしてそれらをさらに磨き、育みながら、地域の課題に取り組みたいという思いを込めました。よろしくお願ひします!

◆一般社団法人サードステージ 杉浦達也



【期間】
7月3日(日)
~7月30日(土)

【会場】
IRORI石巻、宮城
クリニック、第3ス
テージなど

『週末は、芝居を観に出かけよう!』

震災後、石巻には様々なシーンで活躍している劇団が増えました。そんな劇団のうち5団体が集結し、毎週末、石巻地域で芝居パフォーマンスなどのイベントを行います。

多様な演劇の表現方法があり、それぞれの楽しみ方があることを発見していただければと思います。

公演日時、会場、演目などのお問合せ
チケットのお求めは…
080-4472-4274 (トコウ)
<http://i-engekisai.jimdo.com>
企画・運営 いしのまき演劇祭実行委員会2016

街なか

こんにちは！ お久しぶりです！
そしてはじめまして！
街づくりまんぼうの苅谷です。
出身は名古屋市、夏の暑さが嫌
で嫌で高校卒業後に東北へ、石
巻へは2011年から通い、住
み始めて早3年になります。

みなさん、「街づくりまんぼう」という会社をご存知でしょうか？
中瀬にある「石ノ森萬画館」の運営をしている会社、というと分かる方もいらっしゃるかもしれませんが、まんぼうは萬画館の運営ともう一つ、中心市街地（街なか）の活性化・復興、その名の通り「まちづくり」を、お店や住民、行政の方々と一緒に進める仕事も行なっています。

お知らせコーナー

◆ボランティア募集

新聞の配布を継続的にお手伝いして下さる方を募集しています。月1日～OK！お手伝いいただける方は090-6686-8317まで。

◆購読会員について

自力再建、防災集団移転等により仮設住宅から出られる方で、「石巻復興きずな新聞を引き続き読みたい！」という方のために、「購読会員」という制度を作りました。年会費2000円で、毎月新聞を郵送します。希望される方は090-6686-8317まで。

◆活動資金へのご協力をお願いします

石巻復興きずな新聞は、皆さまからの寄付によって支えられています。一日でも長く活動が続けられるよう、ご協力お願いいたします。

◎ゆうちょ銀行

八チイチ八チ店(818店)

普通 3864748

石巻復興きずな新聞舎

◎郵便振替口座

18140-38647481

イシノマキフックウキズナシンブンシャ

◆ご支援ありがとうございます

- ◎秋山裕宏様(宮城県石巻市)
- ◎阿部良助様(宮城県石巻市)
- ◎遠藤しずゑ様(宮城県仙台市)
- ◎大須武則様(宮城県石巻市)
- ◎沖井恵子様(兵庫県伊丹市)

※五十音順

防災・減災

苅谷智大

こんにちは、ピースポート災害ボランティアセンター(PBV)の小林深吾です。「仮設きずな新聞」から引き続き、新たな新聞」に変わらせてもらおうことになりました。PBVとして2

◆一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター
小林深吾

復興きずな新聞では、仮設きずな新聞に引き続き、「まちなか情報局」を担当します。街なかの復興の様子やイベント情報など、日々変化する街なかの様子をお伝えし、少しでも皆さまに身近に感じて頂けるような記事を書いていきたいと思えます。どうぞよろしく願います！

◆株式会社街づくりまんぼう

011年から続けてきた「仮設きずな新聞」の活動は終了しましたが、その後、「新聞を続けたい！」と思いを寄せたメンバーが動き出したこと、本当にうれしく思います。

さて、東日本大震災以降も日本各地で水害や地震災害が発生してきました。その度に、現地での支援活動を展開していくなかで、災害への備えや助け合える関係を考えさせられる場面も多くありました。本紙では防災や減災に関する記事を担当しながら、みなさんと一緒に経験を共有しながら、災害への備えや支援取り組みについて考えたいと思います。よろしく願います。

編集後記

仲間と共に、新たに団体を立ち上げることを決めてから約3か月。人生の中で、もっとも早く過ぎた3か月間でした。毎日のように起こる「想定外」に、自分の至らなさや力不足を実感し、「もう全部ナシ！」と思ったことも3回くらいありましたが、「落ち込んでいる暇があったら解決策を考えなくちゃ！」と、二時間後には復活する精神力を手に入れました。もちろん、理解し支え協力してくれる家族や友人たちなしには、ここまで来られませんでした。

本紙の創刊にあたっては、インターネットを通じ、全国から多くのご寄附をいただきました。石巻に想いを寄せてくださる方々と共にスタートが切れたことを、本当にうれしく思います。

これから皆さまの生活に役立つ、そしてココロを元気にする情報をお届けしていきます。どうぞよろしく願います。(編集長 あき)

■石巻復興きずな新聞とは… 2011年10月～2016年3月まで、ピースポート災害ボランティアセンターが石巻市内の仮設住宅向けに発行・配布してきた無料情報紙「仮設きずな新聞」の後継紙。「最後のひとりが仮設住宅を出るまで」を目標に、2016年6月創刊。市内全仮設住宅および市街地の復興住宅に無料で配布。毎月10日、約6000部発行。

■仮設きずな新聞は以下の場所でも手に入ります。
イオンモール石巻、いしのみ☆キッチン、IRORI石巻、おしかのれん街、かめ七呉服店、川の上・百俵館、道の駅「上品の郷」、包括ケアセンター(開成)

■石巻復興きずな新聞舎(代表 岩元暁子/副代表 川口穰、清水亜衣)
〒986-0826 石巻市鑄銭場5-26(伊東義塾内)
TEL:090-6686-8317 Email:kasetsukizuna@gmail.com

■発行元 石巻復興きずな新聞舎
■助成・協賛 石巻市「地域づくりコーディネート事業」補助金

■編集長 岩元暁子 ■記事執筆 青山英幸/阿部良助/苅谷智大
■副編集長 川口 穰 小林深吾/杉浦達也/鈴木拓也
■題字 矢野瑛子 高柳伸康/野津里美/藤戸孝俊
■挿絵等 妙本咲季 四ツ倉由公彦

■協力 石巻NOTE/川の上・百俵館/キャンナス東北/サードステージ/震災こころのケア・ネットワークみやぎ/真如苑救援ボランティア/包括ケアセンター/ピースポート災害ボランティアセンター/街づくりまんぼう/民宿めぐろ